

渡良瀬遊水地エリア検討部会

前回会議の意見

平成30年2月22日

前回会議の意見

No.	第3回「検討部会」での指摘（要約）
	「関東地域におけるコウノトリ・トキを指標とした生態系ネットワーク形成基本計画」について
1	ホンモロコを使った地域活性化は素晴らしいと思うが、移出した結果、もともとそこに生息していた生きものがいなくなってしまう可能性もある。そのようなリスクを踏まえた対策・チェックを実施することも重要だと思う。
2	短期目標にコウノトリが一定期間滞在すると書かれているが、例えば、良好な湿地環境を保全・再生し採餌環境整備を進めるなど、もっと具体的な記載の方がよいのではないか。
3	到達目標については、トキ・コウノトリを普通種にするのは非常に難しいと思う。このような表現はやめた方がよいと思う。
4	コウノトリ・トキについて目標の中に明確に一文入るように整理してほしい。
5	これからは植物だけでなく、環境教育など、少し発展した内容を授業の中等で継続して実施してもらいたい。日常的に話をしていけないといけないと思うので、各自治体でもお願いしたい。
6	久喜市では埼玉県生態系保護協会久喜支部がかなり頑張っているので、そういうところと連携して先に進んでいってほしいと思う。
	渡良瀬遊水地エリアの現状・課題、現在進行中のプログラム例について
7	多様な主体の連携の先行事例については、地元の人が入ってこないとどうしても「多様な」とは言えないと思う。
8	河北潟では、生き物育む農法で作ったお米の袋に、生き物の絵を描いている。渡良瀬遊水地エリアでも、このお米がとれた田んぼにはこんな生き物がいる、ということが一般の方にもわかりやすくするのも面白いと思う。
9	コウノトリやそのほかの生き物にとっては餌が非常に重要。渡良瀬遊水地内は良いが、その外ではなつみずたんぼ、ふゆみずたんぼのような取組みは非常に貴重なものだと思う。この取組みをやるには肥料や農薬など農法のすべてがかかわってくる。それをどう地域の方と話を進めたのか。それが共有できれば他の市町村も取組みやすくなると思う。
10	せっかく河川事務所が加わっているので河川のワンドやたまりの生物調査と整備もできるとよい。

No.	第3回「検討部会」での指摘（要約）
11	水田に魚が生息するには排水路や用水路から入ってくることにため、農業用水路に魚が生息するポテンシャルがなくてはならない。可能であれば水路の調査をやっていただきたい。また、継続的な調査を何のためにやるのかを考えたときに、保全・再生にフィードバックができると思う。
12	小山市で多面的機能支払交付金による生き物調査が精力的に行われているが、そのような結果を他の市町の結果と統合することでより面的な地域のポテンシャルを評価できると思う。あるいはどこを重点的に保全・再生していったらよいのかの参考にできる。そのような仕組みができればよい。
13	餌場の多様性が必要。例えば夏場に水田の稲が伸びると水田で餌をとれなくなる。そのような時期に餌をとれる環境を遊水地で作ればよいと思う。考えとしては、モデル地域をつくり、着実に調査、結果、環境整備をできれば自然に飛んでくると思う。短期ではなく、長期目標としてやっていきたい。
14	遊水地がラムサール条約に登録された時から問題になっているのがアクセスと回遊性。外部から来られる方は、遊水地は当然1つという前提で来られる。その中で遊水地に来る上で落とせない場所を回っていけるような回遊性を考えていかなければならない。
15	目標達成に一番大事なのは採餌環境づくり。テーマプロジェクトを見ると、それが生き物調査になっている。生き物調査もとても大事だが、採餌環境整備をして、その効果を確認するためのツールだと思う。調査だけをやっても環境がよくなるわけではない。農業では有機農法、河川では自然再生、ビオトープづくりなど、採餌環境整備メニューはかなりたくさんある。まずは採餌環境づくりを進めることを優先的な取り組みとし、それを支える意味で生き物調査や環境教育を実施していくのがよいのではないか。
プログラム・メニューおよび今後の展開・進め方について	
16	採餌環境が一番のテーマだと思っている。エリアのメインとなるべき遊水地内の採餌環境整備が重要と考えている。今後の予定にぜひ入れ込んでほしい。
17	採餌環境整備として休耕田を攪乱し、水がたまる場所、たまらないところを作ってみてもよいのではないか。
18	どうしても掘削の話が中心になるが、掘削ばかりして全面的に池ばかりの環境にはしないほしい。ヨシ原という遊水地らしさはなくしてはいけない。そのバランスをお願いしたい。
19	主体は国交省ではなく皆だということを考慮するようにしないといけない。事務局が主体に見えてしまうことがあるが、そうならないように目に見える主体を作っていかなければならない。
20	地域の面的な広がり考えた取り組みが重要だと思う。河川と渡良瀬遊水地、水田・水路があり、それぞれの管轄が国交省と農水省。農家・農村とどう絡めていくのが重要。協議会として農村の方々と連携を図っていくことが取組の持続性につながるのではないか。